

南コーカサス、アララト山のふもとに伝わる、いにしへの旋律

# 『はるかなる アルメニア』

## 【はじめに】

アルメニアは、黒海の東…アジアとヨーロッパの中間に位置する南コーカサスの小さな国で、トルコやイラン、ジョージア(グルジア)やアゼルバイジャンと国境を接しており、正式には「ハヤスタン」と言います。古くから文明が栄え、世界最古級の遺跡や史跡が数多く現存する国ではありますが、その歴史は周辺諸国に翻弄され続ける過酷なものでした。現在でも全アルメニア人の60%以上が、近代の戦争や迫害によるディアスポラ(離散・移民)によって、国外に暮らしています。決して主張の強い国民性ではないので、日本でもアルメニアの歴史や文化を知る人はとても少ないでしょう。彼らにとって音楽や踊りといった文化は、私たちが想像する以上に互いを結び付けるものであり、自分たちと風土、そして自分たちの現在・過去・未来をつなげ続けています。今日はそんなアルメニアに伝わる古くからの旋律の数々をとりあげてみます。遠い国の、でも不思議に懐かしさも漂うような旋律に触れていただき、音楽や踊りが人間にとってどのような力を持ち得てきたのかを感じていただけたら幸いです。

## 【アルメニア音楽の父、コミタスについて】

アルメニア音楽を語る上で欠かせない人物がコミタス・ヴァルダペトです。1869年に生まれ、早くに両親を亡くした彼は、歌の才能を見込まれて神学校で修道士となりました。その後司祭となり修道院合唱団を設立、その後アルメニア各地の村々を訪ね歩き3000曲もの民謡を採譜しました。しかし1915年から始まったオスマントルコによるアルメニア人迫害の際、彼は捕えられ強制労働へと連れ去られました。その後様々な文化人たちによる嘆願により釈放されましたが、数々の暴力を目にした彼は心を病み、その後20年音楽が出来ないままにこの世を去りました。その悲劇とは裏腹に、彼ののほかり知れない功績によって数多くのアルメニア民謡が現代に生き残り、そして教会音楽が息を吹き返しました。そのためコミタスはアルメニア音楽の父と呼ばれ、全てのアルメニア人から深く敬愛される人となったのです。

## ◆ 第一部 ◆

### ①Mani Asem

アルメニアは世界で初めてキリスト教を国教にした国(301年)ですが、それ以前は太陽信仰・自然崇拝の時代が長く、その伝統は今も尚、様々な儀礼や祝祭に色濃く残っています。コミタスが採譜したこの歌はキリスト教よりもはるか昔…古代から続く「まじない歌」の一つで、泉から汲んだ水を壺に注ぎ、野原で摘んだ花々を讃えながらそれらを壺の中にさし入れ、森や野原など自然の中で、女性たちが歌います。そうして自分にとっての運命の人のことを、自然界に尋ねるのです。

## ②Vagharshapati

ヴァガルシャパットは紀元前から栄えたアルメニアの古都エチミアジンの古名で(2世紀頃から現在に至るまでこの名が正式な地名とされています)、4世紀建立で世界最古の大聖堂であるエチミアジン大聖堂や、7世紀建立のズバルトノツ教会堂遺跡など、ユネスコ世界遺産の建造物が建ち並ぶ街です。「ヴァガルシャパティのダンス」はこの地に伝わる古い踊りの旋律で、コミタスの採譜・編曲によるものです。

## ③Abarani Shoror

ショロールは、手をつないで横に揺らしながら踊られるアルメニアの代表的な踊りの一つ。アバランは首都エレバンの西方にある地域で、古名はカサグと言いました。アルメニア王国時代を経て、その後ペルシャ、モンゴル、トルコ、ロシアと、幾つもの国に併合されてきたこの地は、20世紀初頭のオスマントルコによる虐殺の際、多くのアルメニア人が逃げ込んだ土地でもありました。アバランのショロールは、沢山のショロールの一つです。

## ④Kaqavik

コミタスが曲を書き、アルメニアの国民的詩人ホヴハンネス・トゥマニャンが詩を書いて誕生したアルメニアの童謡で、子供から大人まで広く愛唱される歌です。「暗い雲の間から太陽が顔を出し、小さなヤマウズラが飛び出した…岩の上にとまると、花を讃える詩を歌い、かわいいヤマウズラたちは悲しみの海に心を寄せながら、山も谷も元気にしていってしまう」。アルメニアの人々の、自然との関りや小さな生き物たちへの目線が伺えます。

## ⑤Gorani

ゴラニは現在はトルコ領内にある西アルメニアの古都タロン(ダロン)の山の名「ケルグール」に由来する名前。元々は祝いの席などで歌われるラブソングで、中世までさかのぼる古い歌です。しかしその後、悲しみと追悼にまつわる歌となり、古くは男性は右から左へ、女性は左から右へと列を為し、踊りながら歌われていました。ケルグールは別名コルと呼ばれ、苦難の時代に崇拝されていた山の神の名前でもあります。ゴラニは失われた土地への憧憬と愛情の歌でもあり、歌の中に日本民謡のような「ヤーレン」という言葉が出て来ますが、これは「愛する」というような意味の言葉です。本日演奏するゴラニは、現存するゴラニの中で最も有名なものですが、アルメニアには他にも様々な旋律の「ゴラニ」が歌い継がれています。

## ⑥Ai Ayloughes

コミタスの採譜・編曲による古い民謡。とある男の子の家の前でハンカチを落した女の子と、それを拾ったけれどそのことを隠そうとする男の子…互いに引き合わされた運命、奪われた心を、失ったハンカチにたとえながら、複雑な感情を女の子と男の子がかけあいながら歌う、恋の歌です。このような古い歌では、現在使われていない古い言葉が幾つも使われており、歌によってそれらの言語表現が現在まで生き残っています。

### ⑦Vana Dzknors

現在トルコ領内にあるヴァン湖のほとりの地域で踊られていた、漁師の踊り。魚を捕らえる様子と、獲物への感謝を表していると言われていました。この地域はアルメニア人の祖先であるハイクが古代バビロニア軍の王ベルを撃退した地でもあり、ハヨツジョルとも呼ばれてもいましたが、20世紀初頭のトルコによる大虐殺の際に多くのアルメニア住民がこの地を脱出し海外に渡りましたが、それによってこの踊りは広く知られることとなりました。国外に暮らすアルメニア人たちにも、特に人気のある踊りの一つです。

## ◆第二部◆

### ①Trabzoni Bar

トラブゾンとは現在トルコ領内にある黒海沿岸地域の街で、紀元前7世紀頃にギリシャ人によって開かれ、その後交易で栄えました。長い間ギリシャ人やアルメニア人が多く住んでいましたが、共にこの地を追われつこととなってしまいました。両者は同じ地域で長い年月、音楽や踊りを共有しており、それらは現在まで受け継がれています。パールはパールと同じく、踊りを指す言葉です。

### ②Hoy,Nazan

深い溪谷を越えてやってきたナザンという女性に対して呼び掛けながら歌われる恋の歌で、コミタスによる採譜により広く知られるようになったアルメニアの古謡です。後にアメリカの作曲家によって吹奏楽の組曲の中でもとりあげられ、世界的に知られるようにもなりました。アルメニアの歌には日本語にも聞こえる「ホイ」や「ホイナ」というかけ声や呼び声がしばしば入ります。

### ③Shushiki

ヴァガルシャパット(エチミアジン)地域に残る、女性のソロ・ダンスの旋律。コミタスの採譜とピアノ・アレンジによって広く知られるようになりました。コミタスは素朴な旋律に和声(ハーモニー)を加え、旋律の美しさや物語性を浮き立たせる類まれなる才能があったため、時代と共に、また人々の離散により失われかけていた様々な民謡が、彼の手によって生き残ることとなりました。

### ④Aparani Par

アパランは一部でも登場したアパランのことで、アルメニアの地名。パールはパールと同じく踊りを指します。麦を刈る仕草が入ったリズムカルな踊りで、5拍子を中心に変則パートを持つダンスです。

### ⑤Erzurumi Shoror

エルズルムは古来からシルクロードの要所で、様々な国に支配されてきましたが、現在はトルコ領内にあります。20世紀初頭のオスマントルコによるアルメニア人の迫害後、アルメニア人はこの地から脱出し帰れなくなりました。この旋律はダンスのメロディとして有名ですが、古くはラブソングで、「あなたは私の渴きを潤す唯一の清らかな水だ…緑深き山の尾根、イバラとアザミに囲まれたエルズルムに続く道。あなたと共に歩く夢をわたしは見た」と歌われています。苦難の中にあっても、あなたと共に生きたいと伝える歌です。

## ⑥ Tamzara

古くはアッシリア時代にまでさかのぼると言われるタムザラは、アルメニアでも最も有名な踊りの一つで、結婚式や祝祭などで踊られます。タムザラという言葉は現在北トルコに位置する地名のことですが、古くはシュメール語の植生をつかさどる神の名「タンムーズ」から来ていると言われています。アナトリア各地に同名の踊りが幾つも現存しており、様々な民族によって踊られていますが、旋律は実に多種多様…アルメニアにも幾つかの旋律があり、今日はその中から特に有名なものをメドレーにして、お聴き頂こうと思います。

## 【本日の演奏者】

### きしもとタロー／ブルール、シュヴィ

12歳で南米アンデス山岳地域の縦笛を自ら製作し学び始め、その後ケルト文化圏や東欧、アジア諸地域の様々な音楽文化を学びながら作曲を行うようになった。録音物を作らずに15年ほど活動を続けた後、4種類の作品集を発表。2000年オーストリア・ブルゲンラント州公演、2003年ウズベキスタンの古都サマルカンドにおける東洋音楽祭への招聘、2011年中欧スロバキア・ブラティスラヴァにおけるヤン・スムレク国際文学祭への招聘演奏、2018年ルーマニア、スペインでの招聘演奏など国内外で演奏活動を続け、その傍ら大学でも教壇に立ち、各地で講演活動なども行っている。現在アルメニアの笛を研究中。

### 熊澤洋子／バイオリン

東欧各地の音楽をはじめ、幅広いジャンルで活動するバイオリン演奏家。学生時代に東欧ロマ(ジプシーと呼ばれて来た人々)の音楽に出会い、ルーマニアを始めとする東欧文化圏・バルカン諸地域の多彩な音楽に取り組むようになった。2003年に初のCDを発表、2004年にはルーマニア・ブルガリアへ渡り現地をフィールドワーク。2008年に東欧諸国の音楽を集めた初のソロ・アルバム、2014年にソロ・セカンド「わたしをよぶこえ」をリリース。2011年スロバキアのヤン・スムレク国際文学祭への招聘、2018年ルーマニア、スペイン・アルテアでの夏の音楽祭への招聘など、国外でも活動を拡げている。

### 澤朱里／チェンバロ

京都市出身。チェンバロ奏者。同志社女子大学音楽学科卒業。これまでにチェンバロを河野まり子、大塚直哉、家喜美子各氏に師事。オルガンを U.ピネスキ氏に師事。2014年、セッション・ユニット「わあるど ばろっきー」を結成。京都フィルハーモニーなどでの演奏の他、美術史家・森耕治氏とのチェンバロ名画コンサート・シリーズにおいて、ベルギー王国大使館、東京大学、日仏会館等で好演。2020年、歌とチェンバロ&小型ハーブの「でゅお・まかるん」を結成。歌手のささきひろ子とともに世界の美しい伝承曲をレパートリーとする。アートサロン東山主宰。

### 中野潔子／ヴィオラ・ダ・ガンバ

大阪音楽大学楽理科卒業、同大学院修了(音楽学)。ヴィオラ・ダ・ガンバを坂本利文氏、森川麻子氏に師事。様々な楽器との共演、ソロ演奏などで各地の音楽祭やコンサート等に出演しながら古楽器の可能性を追求している。2014年より茅葺民家などで「美山茅葺音楽祭」を開催。また2018年より京都 Samgha(旧京都坊主 Bar)にて、古楽を中心とした「Mangetsu LIVE」を満月の日に開催している。現在、Le Tissage、アンサンブルクレアント、琉球器楽などの各メンバーとして、また京都音楽院、月光堂音楽教室古楽科の各講師として活躍中。

### 永田充／ドホール(ドール)

日本を代表する、アラブの片面太鼓「ダルブッカ」の奏者。アラブ音楽、ベリーダンス音楽シーンで活躍するほか、周辺地域の打楽器と音楽にも造詣が深く、これまで様々なステージ・メディアに出演。演奏活動に留まらず、全国各地での講師活動など民族打楽器の魅力を広く伝えている。20年に渡って和太鼓演奏にも携わり、日本発のパーカッション奏者なればこそその表現を追求している。NHK・E テレ「おかあさんといっしょ」、NHK・BS「地球テレビ エル・ムンド」、毎日放送「Catch!!」、映画「燃えよ剣(2021)」、FUJI ROCK FESTIVAL、Jarasum International Jazz Festival(韓国)など、出演多数。